

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

皮膚科の臨床 (1991.06) 33巻6号:742～743.

エレキバン貼付部に発症した体部白癬

高木章好、梶田哲、藤井 理、飯塚 一

## ●特集／真菌症

### エレキバン貼布部に発症した体部白癬

高木章好\* 梶田哲\*  
藤井理\*\* 飯塚一\*\*

症 例：43歳，主婦

初 診：1989年2月28日

家族歴・既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：項部に筋肉の張りを感じ、エレキバン®を貼布していた。3日後から貼布部に一致して痒い発疹が出現したが貼布をくり返していたところ、病巣が遠心性に拡大してきたため当院を受診した。

現 症：項部正中中部，僧帽筋辺縁部に直径23mmの皮膚病変を認める。境界は鮮明で，小丘疹，小水疱，小膿疱が集簇しており，白色秕糠様鱗屑が付着している。中心の磁石が当たっていると思われる部の皮膚は正常にみえるが，小糜爛面もともなっている（第1図）。

診断および治療：病巣部から鱗屑を採取し20%苛性カリ標本を作製し，顕微鏡下で菌要素を認めたため培養したところ，*T. rubrum*を検出した。塩酸クロ

コナゾール（ピルツシンクリーム®）を塗布し，2週間で治癒した。

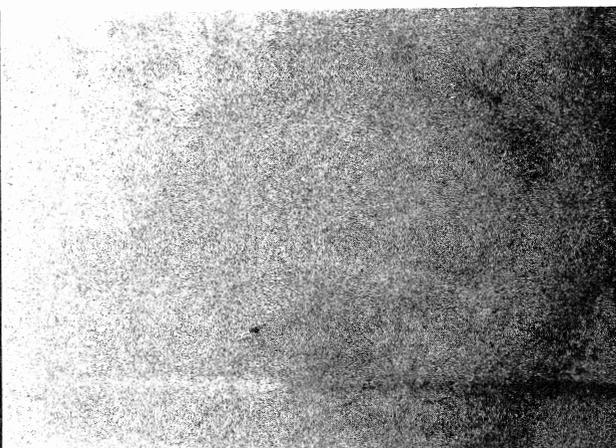
#### 考 按

エレキバンはイボ状突起のあるフェライト磁石のN極を皮膚面にあて，その磁力線によって装着部に電流が発生し，血行をよくし凝りをほぐす貼布用磁気治療器である。直径22mmの円形絆創膏の中心に直径5mmの円形の磁石がついている。われわれは1988年6月から1990年10月までに，本症例を含めエレキバン貼布部位に一致して生じた体部白癬の8例を経験した。

症例をまとめると第1表のとおりである。男女比は1:7で女性に多く，年齢は40歳から71歳までと中年過ぎの女性，特に40歳代から50歳代に5例と多かった。初診月は1月から10月と季節に関係なく発症し



第1図 磁石の当たっていた部の皮膚は正常にみえる。



第2図 接触皮膚炎様の病変部

\* Akiyoshi TAKAGI & Satoshi KAJITA, 帯広市

\*\* Osamu FUJII & Hajime IIZUKA, 旭川医科大学，皮膚科学教室（主任：飯塚 一教授）  
〔別刷請求先〕 高木章好：旭川医科大学皮膚科学教室（〒078 旭川市西神楽4線5号3番地の11）

ていた。菌学的検索では苛性カリ標本で全例菌要素を認め、培養の結果は8例すべて *T. rubrum* が検出された。既往に白癬をもっていたものは3例あり、手白癬1例、足白癬、爪白癬および股部白癬を合併したものの1例、さらに股部白癬、体部白癬と広範囲に白癬を有していたもの1例であった。これらのうち手白癬をともなった例は治療中であったが、残りの2例は発症時他の部位の白癬は治癒していた。これら3例からはすべて *T. rubrum* が同定されていた。

また、当院受診までにステロイド外用療法をうけていたのは8例中1例のみであった。臨床的には定型的な中心治癒傾向を示す辺縁隆起性病変を呈していたが、40歳女性例で病巣全体に紅斑を認め周辺にわずかな小丘疹が散在し、接触皮膚炎様にみえる症例もあった(第2図)。

エレキバン貼布部に一致して発症した白癬の報告は、わが国においては高森が<sup>1)</sup>1982年に7例を報告し、その2例に *T. rubrum* の菌株を得たと述べている。われわれが経験した8例もすべて *T. rubrum* であった。しかし西浦ら<sup>2)</sup>の症例のごとく、猫を介したと推定される *M. canis* による症例の報告もあり、必ずしも *T. rubrum* に限らないようである<sup>3)</sup>。

われわれの症例において手白癬をともなった例はおそらくこれが感染源と推定されるが、残りの7例では *T. rubrum* の感染経路は同定できなかった。*T. rubrum* は白癬の原因としては最も頻度が高く、接触する機会も多いものと推定される。したがって絆創膏によるODT作用等、菌の発育に良好な条件がそろえば<sup>3)</sup>、inoculationにより発症する確率も高いものと考えられる。また、鱗屑に含まれる白癬菌は生体から

第1表 自験例のまとめ

男女比		男:女=1:7			
年齢					
40歳代	50歳代	60歳代	70歳代		
3	2	2	1		
初診月					
1月	2月	6月	7月	8月	10月
1	1	1	2	1	2

離れても長期間生存可能なため、既往に白癬のあった症例では生活環境からの再感染も考えられよう。なお、念のため1例において同一セットに属する未使用エレキバン絆創膏より真菌培養を試みたが、白癬菌は得られなかった。エレキバン貼布部位に一致した体部白癬はこれまで比較的温暖な西日本からの報告のみのものであるが、北海道でも稀ならず認められることをあわせて報告した。

この報告は日皮学会第292回北海道地方会で発表した。

(1991年1月22日受理)

## 文 献

- 1) 高森通夫: 皮膚病診療, 4: 1091-1092, 1982
- 2) 西浦清一, 石岡 栄: 皮膚臨床, 32: 650-651, 1990
- 3) Tagami H et al: J Invest Dermatol, 61: 237-241, 1973